

平成 19 年度秦野市W e b アンケート調査
(第 2 回目)
報告書

平成 19 年 10 月

秦野市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	2
2	調査の設計及び回収結果	2
3	アンケートの調査項目	2
4	調査結果をみる上での注意事項	2
	(1) 調査結果をみる上での注意事項	2
II	調査結果（第2回目）	3
1	属性	5
	(1) 性別	5
	(2) 年齢	5
	(3) 住んでいる場所	5
2	生活行動別主な交通手段	6
3	公共交通（バス）の生活行動別利用状況	7
4	赤字路線（バス）に対する今後の対応	8
	(1) 赤字路線に対する今後の対応	8
	(2) バス不便地域に対する今後の対応	10
5	フレンド号について	12
	(1) フレンド号の認知、利用状況	12
	(2) フレンド号運行に対する今後の対応	14
6	文化芸術について	16
	(1) 文化芸術への認識と活動	16
	(2) 文化芸術の振興のための推進体制	18
	(3) 文化芸術振興のための市の役割	19
	(4) 「秦野らしい文化」とは	20

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は秦野市の行政サービスの向上と、市民の行政に対する意識向上のための基礎資料とするために実施する。

2 調査の設計及び回収結果

本調査の実施方法は以下のとおりです。

① 調査地域	市内全域
② 調査対象	秦野市のネット調査会社の登録者
③ 対象者数	300人（回収ベース）
④ 母集団	秦野市のネット調査会社の登録者約 1000人
⑤ 抽出方法	全数
⑥ 調査方法	ネット調査（ヤフーバリューインサイト株）
⑦ 調査期間	平成 19 年 9 月 25 日（火）～9 月 28 日（金）
⑧ 調査機関	㈱経済立地研究所

3 アンケートの調査項目

アンケートの調査項目の詳細は別紙調査票のとおりである。

●公共交通（バス、フレンド号）について ●文化芸術について

4 調査結果をみる上での注意事項

（1） 調査結果をみる上での注意事項

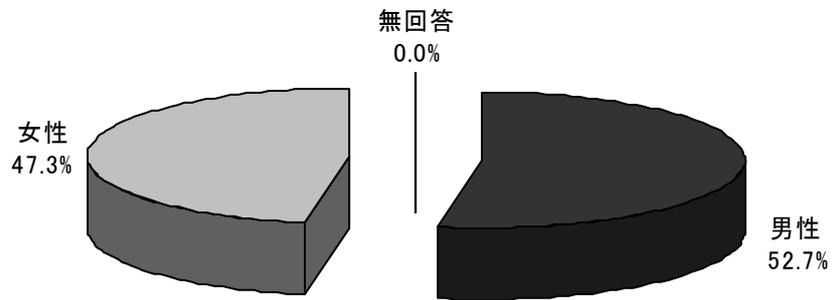
- ① 回答はn（有効回収数）を基数とした百分率で表わし、小数点第 2 位を四捨五入しました。このため、百分率の合計が 100%にならない場合があります。
- ② 集計結果の表やグラフでは、コンピューター入力の都合上、回答の選択肢の言葉を短縮して表現している場合があります。

II 調査結果（第2回目）

1 属性

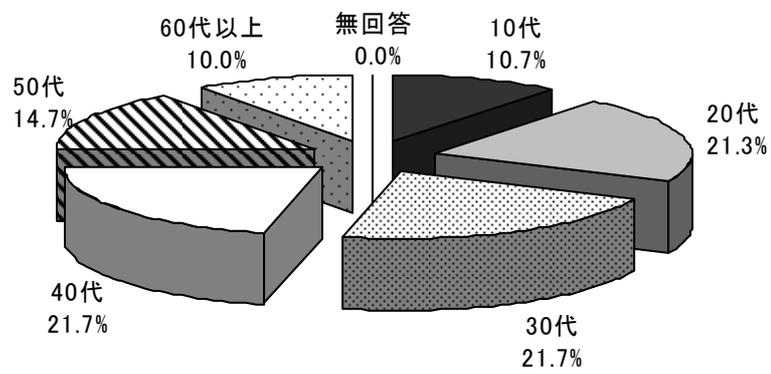
(1) 性別

n=300



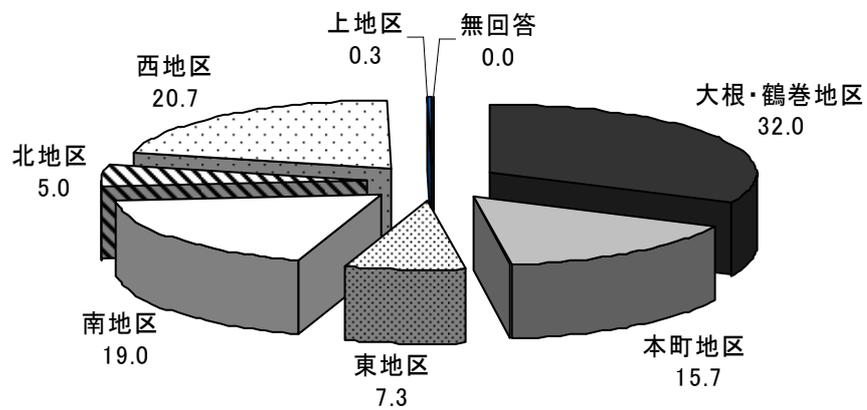
(2) 年齢

n=300



(3) 住んでいる場所

n=300



2 生活行動別主な交通手段

生活行動別主な交通手段は下図にみるとおりである。

通勤はこの行為は行わないが 38.0%と最も多く、次いで鉄道が 23.7%、自分が運転する車 20.7%、徒歩 7.3%とつづく。

通学はこの行為は行わないが 77.7%と最も多く、次いで鉄道 8.3%、徒歩、自転車と共に 4.0%とつづく。

平日の買物は自分が運転する車が 39.0%と最も多く、次いで徒歩 21.0%、自転車 11.3%とつづく。

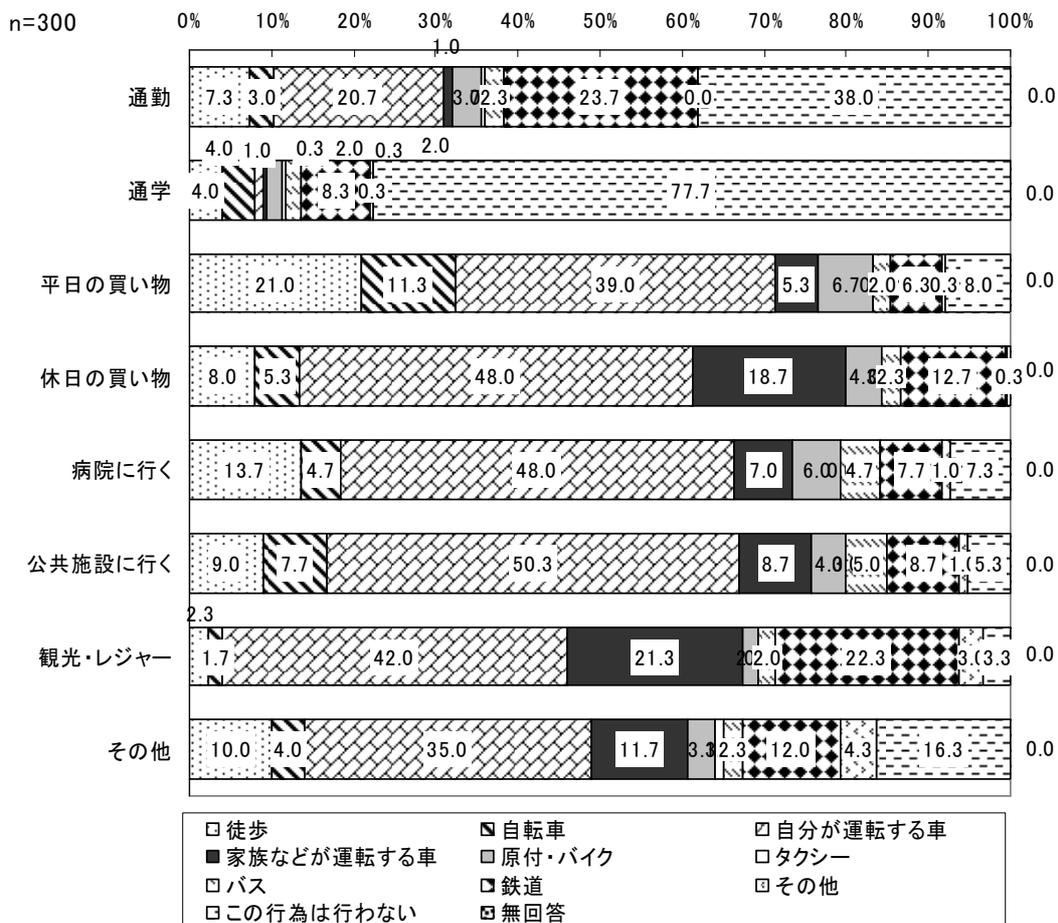
休日の買物は自分が運転する車が 48.0%が最も多く、次いで家族などが運転する車 18.7%、徒歩 8.0%とつづく。

病院に行くは自分が運転する車が 48.0%と最も多く、次いで徒歩 13.7%、家族などがの運転する車 7.0%とつづく。

公共施設に行くは自分が運転する車が 50.3%と最も多く、次いで徒歩 9.0%、家族などが運転する車と鉄道が共に 8.7%とつづく。

観光・レジャーは自分が運転する車が 42.0%と最も多く、次いで鉄道 22.3%、家族などが運転する車 21.3%とつづく。

バスの利用は公共施設に行くの 5.0%と病院に行くの 4.7%が少し比率が高い。



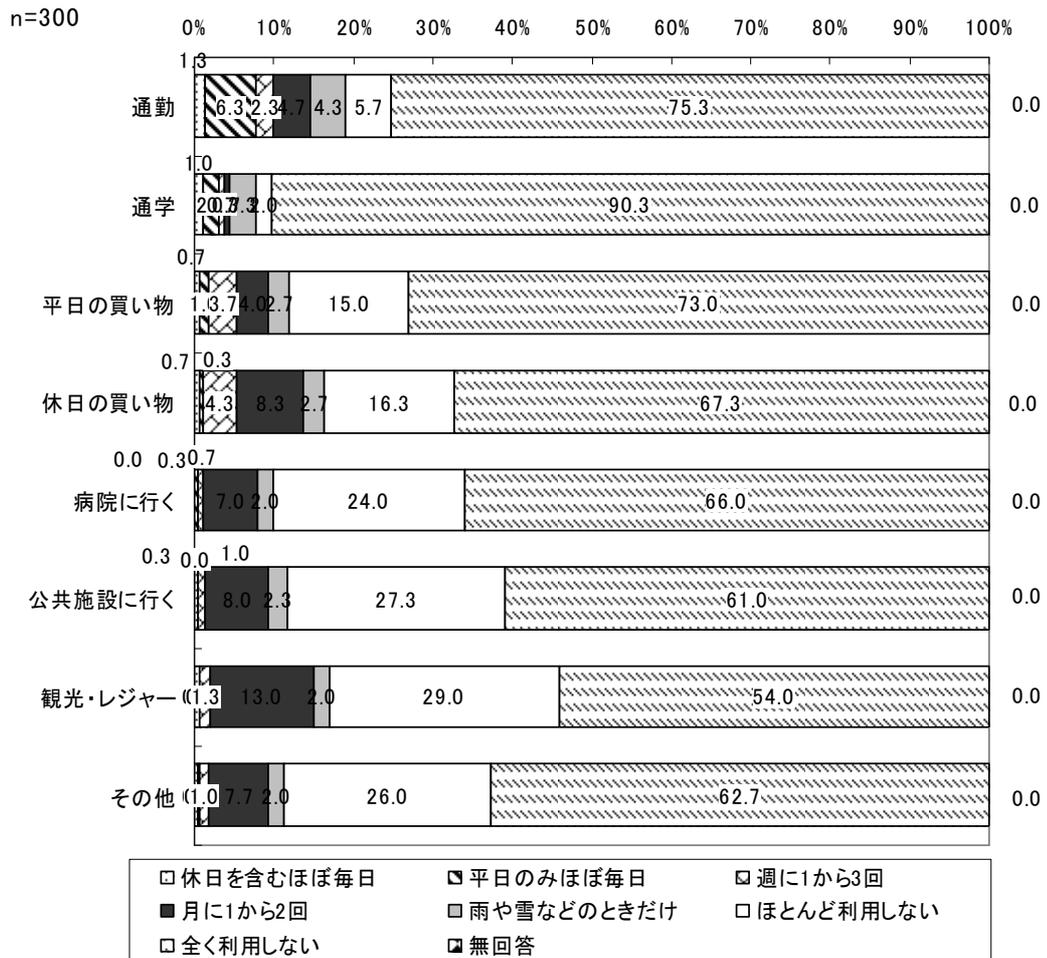
3 公共交通（バス）の生活行動別利用状況

公共交通（バス）の生活行動別利用状況は下図にみるとおりである。

休日を含むほぼ毎日と平日のみほぼ毎日を合計した数値は通勤 7.6%、通学 3.0%、平日の買物 2.0%、休日の買物 1.0%、病院に行く 0.3%、公共施設に行く 0.3%となっている。

週に1から3回と月に1から2回を合計した数値は通勤 7.0%、平日の買物 7.7%、休日の買物 12.6%、病院に行く 7.7%、公共施設に行く 9.0%、観光・レジャー14.3%となっている。

全項目ともほとんど利用しない、全く利用しない比率が非常に高い。

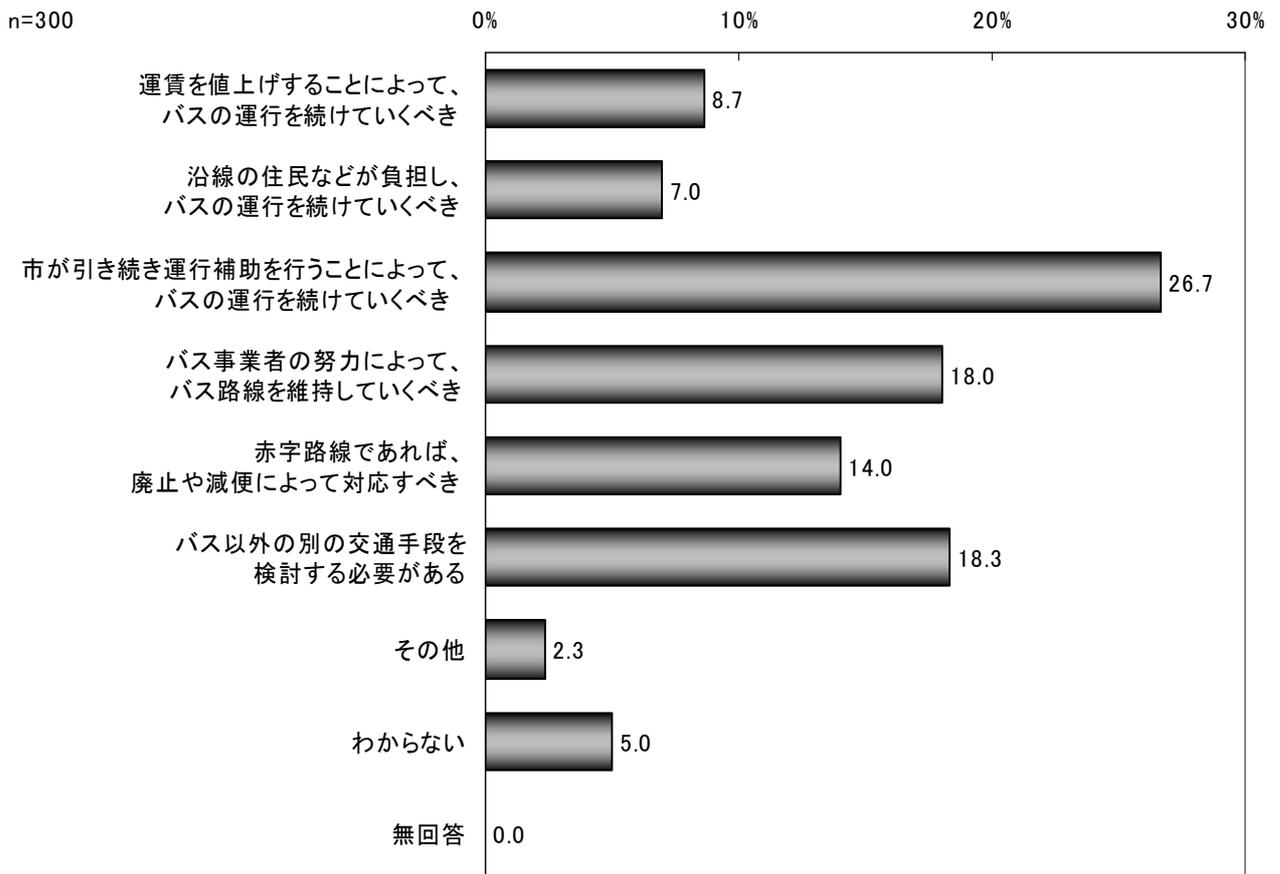


4 赤字路線（バス）に対する今後の対応

(1) 赤字路線に対する今後の対応

「市が引き続き運行補助を行うことによって、バスの運行を続けていくべき」が 26.7%と最も比率が高い。次いで「バス以外の別の交通手段を検討する必要がある」18.3%、「バス事業者の努力によって、バス路線を維持していくべき」18.0%、「赤字路線であれば、廃止や減便によって対応すべき」14.0%とつづく。

運行補助によって運行すべきが比率は高いものの、意見は多様となっていることがうかがえる。



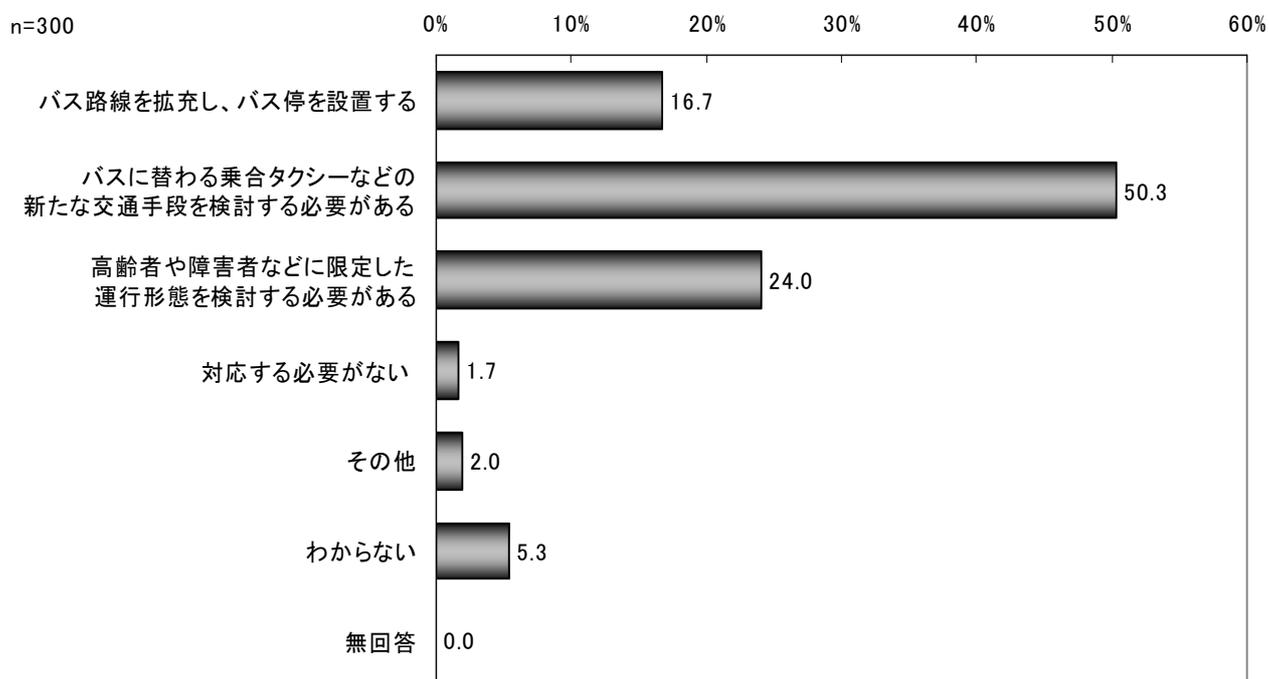
性別では、「沿線の住民などが負担し、バスの運行を続けていくべき」で、男性 10.8%の支持に対し、女性は 2.8%となっている。他の項目では男女間に大きな意見の相違はみられない。

Q3 秦野市内を運行するバス路線の中には、利用者が少ないことから、赤字となっている路線もあり、一部では市で運行補助を行っております。この赤字路線の対応について、あなたの意見をお聞かせください。[SA]

%	全体 (実数)	けよ運 てつ賃 いてを く、値 べバ上 きスげ のす 運る 行こ をと 続に	いし沿 く、線 べバの きス住 の民 の運 行ど をが 続負 け担 て	の行市 運うが 行こ引 をとき 続に続 てつ運 いて行 く、補 べバ助 きスを	いてバ く、ス べバ事 き業 路者 線の を努 力に しよ つ	きや赤 減字 便路 に線 よで つあ てれ ば 廃 止	をバ 検ス 討以 す外 の必 要の が交 通手 段	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体	300	8.7	7.0	26.7	18.0	14.0	18.3	2.3	5.0	0.0
男性	158	8.9	10.8	27.2	16.5	15.2	16.5	2.5	2.5	0.0
女性	142	8.5	2.8	26.1	19.7	12.7	20.4	2.1	7.7	0.0

(2) バス不便地域に対する今後の対応

「バスに替わる乗合タクシーなどの新たな交通手段を検討する必要がある」が 50.3%と最も比率が高くなっている。次いで「高齢者や障害者などに限定した運行形態を検討する必要がある」が 24.0%とつづく。



性別では、「高齢者や障害者などに限定した運行形態を検討する必要がある」は男性 31.6%に対し、女性は 15.5%で男性の比率が高い。反対に「バス路線を拡充し、バス停を設置する」は女性 22.5%に対し、男性は 11.4%で女性の比率が高くなっている。「バスに替わる乗合タクシーなどの新たな交通手段を検討する必要がある」は男女間に差異はみられない。

Q4 このバス利用が不便な地域に対する公共交通施策としての今後の対応として、あなたの意見をお聞かせください。あてはまるものを1つお選びください。[SA]

%	全体 (実数)	バス路線を拡充し、バス停を設置する	バスに替わる新たな交通手段を検討する必要がある	高齢者や障害者などに限定した運行形態を検討する必要がある	対応する必要がある	その他	わからない	無回答
全体	300	16.7	50.3	24.0	1.7	2.0	5.3	0.0
男性	158	11.4	49.4	31.6	1.9	2.5	3.2	0.0
女性	142	22.5	51.4	15.5	1.4	1.4	7.7	0.0

年代別では、「高齢者や障害者などに限定した運行形態を検討する必要がある」は 50 代以上での比率が高いのが目立つ。

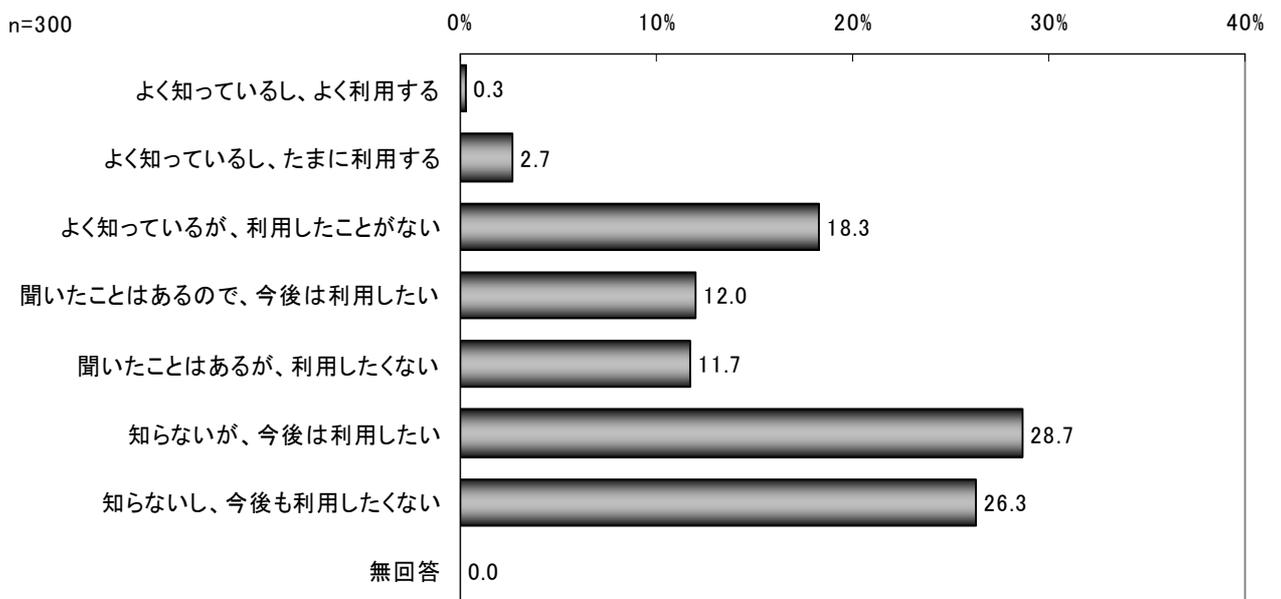
%	全体 (実数)	バス 路線を 拡充し、 バス 停を設 置する	バス に替わ る乗合 タクシー などの 新たな 交通手 段を検 討する 必要が ある	バス に替わ る乗合 タクシー などの 新たな 交通手 段を検 討する 必要が ある	高 齢者 や障 害者 など に限 定した 運行 形態 を検 討す る必 要が ある	高 齢者 や障 害者 など に限 定した 運行 形態 を検 討す る必 要が ない	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体	300	16.7	50.3	24.0	1.7	2.0	5.3	0.0	
10代	32	15.6	53.1	21.9	0.0	0.0	9.4	0.0	
20代	64	15.6	48.4	26.6	3.1	1.6	4.7	0.0	
30代	65	21.5	55.4	13.8	1.5	3.1	4.6	0.0	
40代	65	16.9	47.7	20.0	3.1	4.6	7.7	0.0	
50代	44	18.2	43.2	36.4	0.0	0.0	2.3	0.0	
60代以上	30	6.7	56.7	33.3	0.0	0.0	3.3	0.0	

5 フレンド号について

(1) フレンド号の認知、利用状況

「よく知っているし、よく利用する」は0.3%、「よく知っているし、たまに利用する」は2.7%、「よく知っているが、利用したことはない」は18.3%となっている。よく知っている認知率は21.3%、利用率は3.0%であった。

「聞いたことはあるので、今後は利用したい」12.0%、「知らないが、今後は利用したい」28.7%で今後の利用希望は40.7%の高い比率となっている。



性別では、よく知っている認知率は男性19.0%、女性23.9%で、利用率は男性3.8%、女性2.1%となっている。今後の利用希望は男性41.8%、女性39.5%であった。

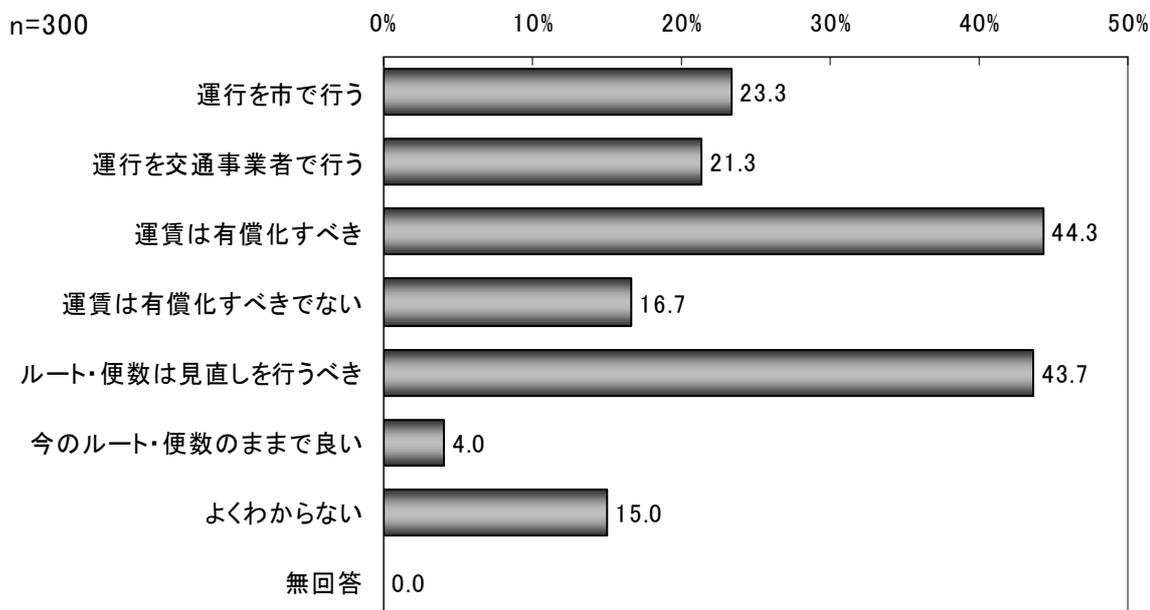
Q5 あなたは、フレンド号を知っていますか、また利用したことがありますか。あてはまるものを1つお選びください。[SA]

	全体 (実数)	よく 利用 する	よく 利用 する	よく 知 つ て い る が 、 利 用 し た こ と は な い	よ く 知 つ て い る し 、 た ま に 利 用 す る	よ く 知 つ て い る し 、 よ く 利 用 す る	聞 い た こ と は あ る が 、 利 用 し た く な い	聞 い た こ と は あ る の で 、 今 後 は 利 用 し た い	聞 い た こ と は あ る が 、 利 用 し た く な い	し ら な い が 、 今 後 は 利 用 し た い	し ら な い し 、 今 後 も 利 用 し た く な い	無 回 答
全体	300	0.3	2.7	18.3	12.0	11.7	28.7	26.3	0.0			
男性	158	0.6	3.2	15.2	11.4	12.7	30.4	26.6	0.0			
女性	142	0.0	2.1	21.8	12.7	10.6	26.8	26.1	0.0			

(2) フレンド号運行に対する今後の対応

「運賃は有償化すべき」が44.3%と最も比率が高い。次いで「ルート・便数は見直しを行うべき」43.7%、「運行を市で行う」23.3%、「運行を交通事業者で行う」21.3%とつづく。

運行をだれが行うかは意見が拮抗しているが、運賃は有償化、ルート・便数は見直しという意見が強くなっている。



性別では、運賃の有償化の意見は男性が女性より強い。

Q6 フレンド号は現在、市が無料で運行しておりますが、有償化による交通事業者への移行を検討していることについて、あなたの意見をお聞かせください。あてはまるものを3つまでお選びください。[MA]

%	全体 (実数)	運行を市で行う	運行を交通事業者で行う	運賃は有償化すべき	運賃は有償化すべきでない	ルート・便数を見直しを行うべき	今のルート・便数のままで良い	よくわからない	無回答
	300	23.3	21.3	44.3	16.7	43.7	4.0	15.0	0.0
	158	22.2	24.1	51.9	16.5	41.8	3.8	12.7	0.0
	142	24.6	18.3	35.9	16.9	45.8	4.2	17.6	0.0

年代別では、運行は市で行うは 20 代、30 代で、運行は交通事業者では 40 代、60 代以上で意見が強い。

運賃は有償化すべきは 40 代以上で比率が高くなっている。

ルート・便数は見直しを行うべきは加齢に伴い比率が高くなる傾向がみられる。

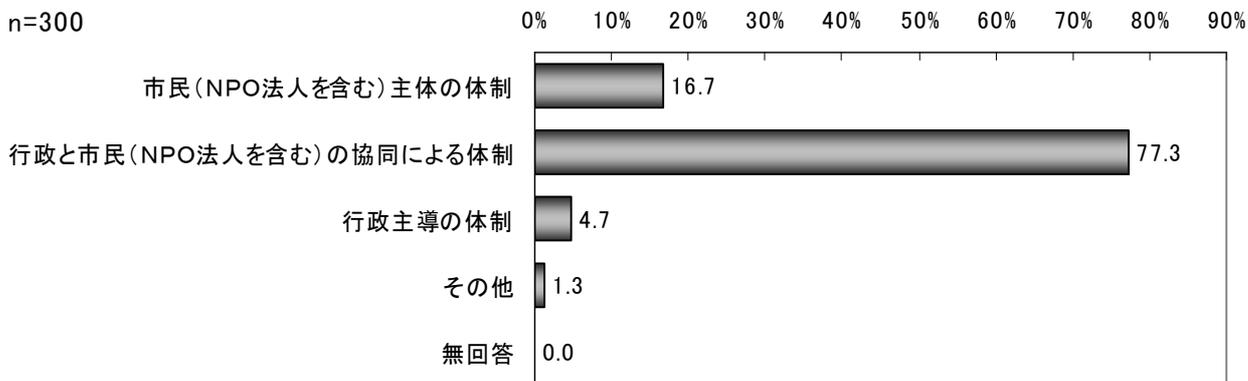
%	全体 (実数)	運行を市で行う	運行を交通事業者で行う	運賃は有償化すべき	運賃は有償化すべきでない	ルート・便数は見直しを行うべき	今のルート・便数のままで良い	よくわからない	無回答
全体	300	23.3	21.3	44.3	16.7	43.7	4.0	15.0	0.0
10代	32	21.9	6.3	12.5	25.0	28.1	12.5	40.6	0.0
20代	64	31.3	18.8	34.4	20.3	40.6	1.6	14.1	0.0
30代	65	26.2	21.5	43.1	13.8	43.1	6.2	20.0	0.0
40代	65	20.0	27.7	56.9	15.4	46.2	1.5	7.7	0.0
50代	44	13.6	18.2	59.1	13.6	50.0	2.3	4.5	0.0
60代以上	30	23.3	33.3	53.3	13.3	53.3	3.3	10.0	0.0

年代別では、「活動している」は30代で7.7%と他の年代に比べ著しく比率が低いのが目立つ。
「今後活動してみたい」は60代以上、30代、20代で比率が高い。

%	全体 (実数)	文化芸術活動は大切だと 思うし、活動をしている	文化芸術活動は大切だと 思うので、今後活動してみたい	文化芸術活動は大切だと 思うが、活動はしたいと 思わない	文化芸術活動は大切では ないと思うし、活動もし たいと思わない	わからない	無回答
全体	300	17.3	37.0	35.7	0.3	9.7	0.0
10代	32	21.9	31.3	31.3	0.0	15.6	0.0
20代	64	20.3	39.1	32.8	0.0	7.8	0.0
30代	65	7.7	43.1	38.5	1.5	9.2	0.0
40代	65	20.0	32.3	36.9	0.0	10.8	0.0
50代	44	20.5	27.3	38.6	0.0	13.6	0.0
60代以上	30	16.7	50.0	33.3	0.0	0.0	0.0

(2) 文化芸術の振興のための推進体制

「行政と市民（NPO法人含む）の協同による体制」が 77.3%と圧倒的な支持となっている。次いで「市民（NPO法人含む）主体の体制」16.7%、「行政主導の体制」4.7%とつづく。



性別では、「行政と市民（NPO法人含む）の協同による体制」は女性が男性より 15 ポイントほど比率が高い。反対に「市民（NPO法人含む）主体の体制」は男性が女性より 8 ポイント弱比率が高くなっている。

Q8 あなたは、秦野の文化芸術を振興していく上で、最も効果的な推進体制とは、どのような体制であると考えますか。次の中から1つお選びください。[SA]

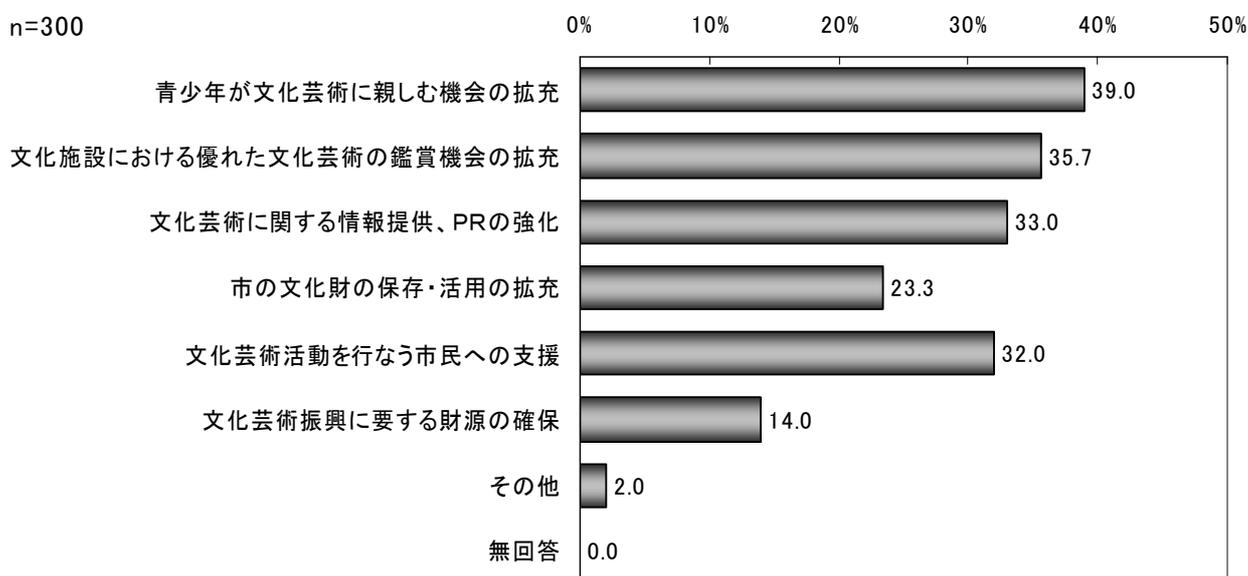
%	全体（実数）	市民（NPO法人含む）主体の体制	行政と市民（NPO法人含む）の協同による体制	行政主導の体制	その他	無回答
全体	300	16.7	77.3	4.7	1.3	0.0
男性	158	20.3	70.3	7.0	2.5	0.0
女性	142	12.7	85.2	2.1	0.0	0.0

年代別では、「行政と市民（NPO法人含む）の協同による体制」は 20 代と 60 代以上で比率が高い。「市民（NPO法人含む）主体の体制」は 40 代と 50 代で比率が高くなっている。

%	全体（実数）	市民（NPO法人含む）主体の体制	行政と市民（NPO法人含む）の協同による体制	行政主導の体制	その他	無回答
全体	300	16.7	77.3	4.7	1.3	0.0
10代	32	15.6	81.3	3.1	0.0	0.0
20代	64	7.8	87.5	3.1	1.6	0.0
30代	65	15.4	78.5	6.2	0.0	0.0
40代	65	27.7	66.2	4.6	1.5	0.0
50代	44	22.7	68.2	4.5	4.5	0.0
60代以上	30	6.7	86.7	6.7	0.0	0.0

(3) 文化芸術振興のための市の役割

「青少年が文化芸術に親しむ機会の拡充」39.0%と最も比率が高くなっている。次いで「文化施設における優れた文化芸術の鑑賞機会の拡充」35.7%、「文化芸術に関する情報提供、PRの強化」33.0%、「文化芸術活動を行う市民への支援」32.0%とつづく。



性別では、「青少年が文化芸術に親しむ機会の拡充」と「文化施設における優れた文化芸術の鑑賞機会の拡充」は女性が男性より10ポイント以上比率が高くなっているのが特徴的である。

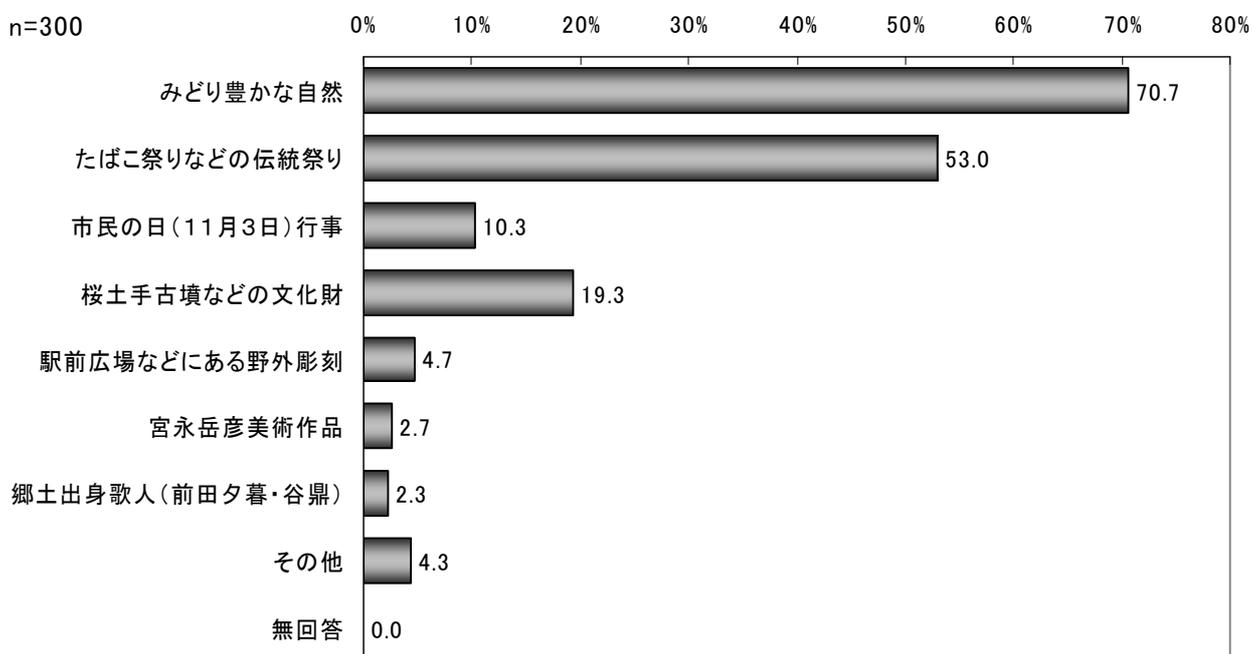
「文化芸術活動を行う市民への支援」、「市の文化財の保存・活用の拡充」、「文化芸術振興に要する財源の確保」は男性が女性より6~10ポイント比率が高くなっている。

Q9 あなたは、秦野の文化芸術を振興するために、市が特にどのようなことをすれば良いと考えますか。次の中から2つまでお選びください。[MA]

%	全体 (実数)	青少年が 文化芸術に 親しむ 機会の 拡充	文化施設 における 優れた 鑑賞 機会の 拡充	文化 施設 PRの 強化 する 情報 提供	市の 文化 財の 保存・ 活用 の 拡充	市民 への 文化 芸術 活動 を行 なう 市 の 支 援	文化 芸術 振興 に要 する 財 源の 確保	その他	無 回 答
全体	300	39.0	35.7	33.0	23.3	32.0	14.0	2.0	0.0
男性	158	33.5	27.2	32.9	26.6	36.7	17.1	2.5	0.0
女性	142	45.1	45.1	33.1	19.7	26.8	10.6	1.4	0.0

(4) 「秦野らしい文化」とは

「みどり豊かな自然」が70.7%と最も比率が高くなっている。次いで「たばこ祭りなどの伝統祭り」53.0%、「桜土手古墳などの文化財」19.3%とつづく。



性別では、「たばこ祭りなどの伝統祭り」は女性が男性より14ポイント弱比率が高くなっている。反対に、「桜土手古墳などの文化財」は男性が女性より7ポイント強比率が高い。

Q10 あなたは、大きな視点から、「秦野らしい文化」とは、どのようなことだと思いますか。次の中から2つまでお選びください。[MA]

	全体 (実数)	みどり 豊かな 自然	りた ばこ 祭り など の 伝 統 祭 り	行 事 市 民 の 日 (1 1 月 3 日)	桜 土 手 古 墳 な ど の 文 化 財	彫 刻 駅 前 広 場 な ど に あ る 野 外	宮 永 岳 彦 美 術 作 品	暮 郷 土 出 身 歌 人 (前 田 夕 暮 ・ 谷 鼎)	そ の 他	無 回 答
全体	300	70.7	53.0	10.3	19.3	4.7	2.7	2.3	4.3	0.0
男性	158	72.2	46.2	10.1	22.8	4.4	1.9	2.5	6.3	0.0
女性	142	69.0	60.6	10.6	15.5	4.9	3.5	2.1	2.1	0.0